

関係各位

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号を送付します。

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

1. 害虫名 クロテンコナカイガラムシ (*Phenacoccus solenopsis* Tinsley)

2. 発生作物 ナス

3. 発生経過

平成 29 年 11 月、高知県東部の施設栽培ナスにコナカイガラムシの寄生が認められた。神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、クロテンコナカイガラムシであることが判明した。

本種はこれまで沖縄県（スイゼンジナ、ヒマワリ）、佐賀県（ナス）、福岡県（ミニトマト、ナス）、山口県（トマト）、愛知県（食用トレニア、食用キンギョソウ）で発生が確認されている。

海外では、中国、台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、スリランカ、インド、パキスタン、エジプト、イラン、トルコ、オランダ、西アフリカ、北米～南米、オーストラリア、ニューカレドニアに分布している。

4. 形態・生態

雌成虫は翅を欠き、体型は楕円形である。体長は通常 3～4.2mm 程度で、大きい個体は 5mm を超える。背面に白色のロウ質物を分泌するため、全体としては白く見えるが、ロウ質物は亜中央部で薄くなるため、2 対の黒斑があるように見える（写真 1、2）。また、雄成虫は 1 対の翅を持つ。

成虫はワタ状のロウ質物の卵のう内に平均で 350 個程度産卵する。繁殖様式は、交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の両方が知られている。本種の単為生殖個体群における 1 世代の発育期間は平均 70 日程度である。

5. 被害状況

生長点付近を中心とした茎葉に寄生し、分泌した甘露からすす病を生じる。

広食性で、海外ではワタ、オクラ、トマト、ナス等 53 科 154 種の植物に寄生することが確認されており、寄主植物は雑草から作物まで広範囲にわたる。インド及びパキスタンでは主要作物である綿花に被害を与えている。

6. 防除対策

- 1) 発生ほ場では、被害を拡大させないために、寄生部位を早期に除去し、ほ場外に持ち出して土中に埋めるなど、適切に処分する。
- 2) 現在のところ、ナスおよびその他野菜類において本種に適用のある農薬はない。
(参考) ナスのタバココナジラミ類幼虫に対して登録のあるアプロード水和剤、コナジラミ類やアブラムシ類に対して登録のあるスタークル（アルバリン）顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤、モスピラン顆粒水溶剤は、他作物でカイガラムシ類あるいはコナカイガラムシ類に登録がある。

7. 参考資料

- 1) 輸入検疫で発見された主な重要害虫 (*Phenacoccus solenopsis*). 植物防疫所病虫害情報 92:6

お問合せは、環境農業推進課（TEL:088-821-4861）または病虫害防除所（TEL:088-863-1132）まで

